



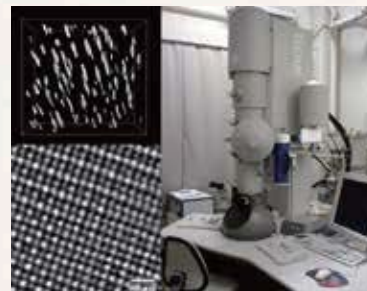
## コース生(第1期生)の紹介



赤嶺 大志

総合理工学府  
量子プロセス理工学専攻  
修士1年

私は現在、電子顕微鏡を用いた材料の構造解析を専門とし、研究を行っています。電子顕微鏡は近年急速に開発が進み、材料科学分野におけるマルチスケールでの多目的解析ツールとして注目されています。例えば最近では、原子レベルでの直接観察による結晶構造の解析や、材料内部の析出物等を3次元的に分析することも可能となってきました。その一方で、電子顕微鏡像は非常に多くの情報を含んでいるが故に、現象の成因を1つに同定するのに時間を要してしまうことがあります。このような点から、他の物性測定や組織シミュレーションなどの解析手法と組み合わせた、多方面からの解析が求められます。したがって、優れた材料科学者たる為には多様な分析手法を修得し、問題解決の際の手札を増やすことが重要であると考えられます。本プログラムでは研究室ローテーションやインターンシップを通して様々な技術を学ぶことができ、なおかつ海外実習や語学研修、経済学の授業なども受けられるとのことなので、これを十分に活用し、国際的な競争のより一層激しくなるこの科学分野において、第一線に立てる人材となるよう努力していきたいと思っています。



儀間 弘樹

総合理工学府  
量子プロセス理工学専攻  
修士1年

私は、沖縄高専専攻科で半導体プロセスに関する研究に取り組んでいました。その過程で実験と研究に魅了され、博士課程進学を目指して本大学院に進学しました。初めて地元を離れ、単身で新しい研究生生活をスタートさせることは勇気のいる決断でしたが、先生や先輩方からのサポートに恵まれており、今では有意義な研究生生活を送ることができています。研究内容は、超ナノ微結晶ダイヤモンド (UNCD) 薄膜と呼ばれる新たなダイヤモンド系材料を扱った新規太陽電池・センサーの創製を目指して進めています。リーディングプログラムに加わってからは、研究室ローテーションが実施され、現在は結晶物性工学研究室に属し、膜構造の視点から研究を手がけています。さらに本プログラムでは、人文系の講義も開講されるため、専攻以外の先生や学生、海外の学生との交流も多くなり、忙しくも刺激的で有意義な日々を過ごすことができます。奨励金による経済的サポートも充実していることから、グローバルに活躍できる研究者になるための環境が十分に整っています。リーディングプログラムに興味を抱いた方は是非一度キャンパスに足を運ばれてはいかがでしょうか。



佐藤 幹

総合理工学府  
環境エネルギー工学専攻  
修士1年

交通機関及び情報伝達手段の目覚ましい発達により、現代社会ではヒト、モノ、カネが世界中でかつてない速度で流動的に動いています。時々刻々と変化する国際社会において、科学技術の具現化を担うエンジニアには、自身の専門分野に関する知識だけではなく、これまでは求められていなかった新たな知識、技能が求められます。具体的には、他国の環境、政治及び経済に関する情報を正確に把握するとともに、その国で求められているものは何か、実際の運用は可能であるか、保守点検は適切に継続されるかといったことを具体的な根拠を基に主体的に判断することが求められます。それらに加えて、多人数からなるチームを統率し、プロジェクトを主導するリーダーエンジニアとしては、各国の言語、独自の文化、それぞれの生活習慣を深く理解し、チーム内での信頼関係を築くことも求められます。グリーンアジア国際戦略プログラムでこれから提供される豊富な機会を十分に生かし、物事を多面的に捉え、上はアジア全体への影響から下はプラント内での労働環境まで能動的に判断を下し、世界の一線で幅広く活躍できるリーダーエンジニアになることが僕の目標です。

